

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会

vol.55
2022.01.05

若手研究者コラムリレー

針谷 美智子（はりがい みちこ）



プロフィール

新潟医療福祉大学 健康科学部健康スポーツ学科 助教
日本体育・スポーツ・健康学会の専門領域: 体育科教育

東京都出身

2012年 立教大学文学部教育学科初等教育専攻卒業 学士(文学)
2014年 日本体育大学大学院博士前期課程体育科学研究科 修士(体育科学)
2017年 日本体育大学児童スポーツ学部 助教
2018年 新潟医療福祉大学健康科学部 健康スポーツ学科 助教
2020年 日本体育大学大学院博士後期課程体育科学研究科 博士(体育科学)
現在に至る

E-mail: michiko-harigai@nuhw.ac.jp



教員採用試験に向けた
実技授業風景

わたしの研究

鉄棒が嫌いな子供を減らしたい！

「鉄棒」というワードを聞くと、「苦手だったなあ」と思う方が多いのではないのでしょうか。校庭の片隅に存在感薄めに設置されている鉄棒。教具やタオルをぶら下げる物干しと化し、運動遊びにはなかなか使ってもらえないことしばしば…。そんな鉄棒ですが、授業で取り上げると休み時間にブームが起きます。私のこれまでの研究を少しだけ紹介させてください。

私は、これまで小学校低・中学年の鉄棒運動について毎年度学習することによる技能成果について検討してきました。低学年の児童を対象にしたのは、逆さになったり、回転したり、腕で体を支えたりといった動きは、体が身軽なうちに学習した方が身につけやすいからです。研究を通して分かったことを2つ紹介します。

1つ目は、1学年6時間程度の授業時間でも2年間毎年度学習をすると81.3%以上の児童が低学年の技能を身に付けられるということです。2つ目は、運動技能水準が低い児童は3年間毎年度学習することで低学年の技能を習得できますが、動きを覚える順番は児童によってそれぞれ異なるということです。

1学年の学習単元では、「あと少しでできそうなのに…」というところで学習が終わってしまう場面をよく見かけます。よりたくさんの児童が「出来た！」を味わうためには、繰り返しの学習が大切なのだと研究を通して感じています。

今後もより多くの児童が「出来た！」に出会えるように研究を進めていきたいです。

わたしの渾身の論文・書籍・記事

針谷美智子, 近藤智晴. 鉄棒運動における運動技能水準下位児の学習成果に関する事例的研究: 毎年度の単元設定を三年間実施して. 体育学研究 66: 853-868, 2021.



(なんでも帳)

「ねえねえ先生、できるようになったけど、カッコ悪い」差し出されたタブレットには、その児童の逆上がり映像が写っていました。

「できるようにはなったんだけど…」

実践授業の1時間目、逆上がりができなかった女の子。授業や休み時間にたくさん練習をしてできるようになったそうです。でも彼女には新たな悩みが…。自分の逆上がりは、格好良くないということです。確かに彼女の映像を見ると上がる途中で体が反り返ってしまい、スムーズな動きとはいえない出来栄でした。

私は、彼女の言葉に強く心を打たれました。技ができるようになったことに満足せず、「できたけど、イメージと違うな。」「もっと格好良くやるにはどうしたらいいのだろう。」とより探究的に学習をしていたからです。彼女は、その後も撮影しては観察し、観察しては練習し、と繰り返し練習に取り組んでくれました。

できるようになったけど、もっと上手になりたいという向上心。何度も繰り返し映像を見て分析する探究心。私も研究者の一人としてこの気持ちを持ち続けていきたいな…と先生と児童の何気ないやり取りを見て感じました。

ご一読ありがとうございました。



実践授業中の児童の様子

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました！ → メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPa5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taikugakkaiwakate@gmail.com

